

九州タブチにおけるDX戦略について

制定日:2024年9月24日
株式会社 九州タブチ
代表取締役社長 鶴ヶ野 未央

1. 企業経営の方向性及び情報処理技術の活用 の方向性

- DX方針

「スマートファクトリーの実現に向けてDXを活用強化し、新たな価値創造に取り組みます」

- コア事業の機能強化

- AI、IoTを駆使したムダのない製造

- 経営基盤の強化

- 働きやすく、働きがいのある職場づくり
- QCDの強化、競争力の向上

2. 企業経営及び情報処理技術の活用の具体的な戦略

① 業務オペレーションの変革

ルーティンワークの工数削減や、迅速なフィードバック、一貫性のあるデータ管理のために、IT、RPA、AIなどのデジタル技術を活用し、業務効率や生産性アップ、品質の向上を目指します。

② スマートファクトリー化によるものづくりの変革

IoTやAIといったデジタル技術を活用した見える化や自動化を促進し、市場競争力を強化するとともに、※₁ゲーミフィケーションを取り入れた成長を実感※₂できるしくみを構築し、働きがいに繋げていきます。

※₁ゲーミフィケーション：ゲームにでてくる「レベルアップ」や「スコア競争」など、ゲームで利用される要素を盛り込むことで、参加者を楽しく熱中させ、学習や目標達成へのモチベーションを高めようとするもの

※₂生産活動を常にモニタリングすることで、連続した計測値として製品生産時間を把握し、個人の特性やその時々の諸条件の変化がどのように影響しているか等と合わせて分析することによって、作業員一人ひとりのモチベーションアップにつながるようなデータ提供を行います。

3. 戦略を効果的に進めるための体制

DX 推進課を設置し、取締役社長を統括責任者、DX 推進課、および当該担当部長を実務責任者とします。DX 推進課は全社横断的な部門とし、デジタル技術を活用し全部門の業務上の生産性向上と、デジタル人材教育を確実に推進します。

3-1. 人材育成

DX化に適した社内体制を構築するために、以下のスキルを高める教育を行います。

DXの必要性を理解させる。

DXの必要性を理解させるためには、経営層から社員まで、DXの目的やメリットを明確に伝える必要があります。また、DXによってどのような変化が起こるのかを具体的にイメージできるようにします。

デジタル技術を学ばせる。

DX人材には、デジタル技術を活用してビジネスに新しい風を起こすことができる能力が求められます。そのため、デジタル技術を学ぶ機会を提供します。

継続的に学習する機会を提供する。

デジタル技術は日々進化しています。そのため、DX人材には、継続的に学習する機会を提供します。

4. 最新の情報処理技術を活用するための環境整備の具体的方策

- ① 業務改善の為、AI、RPA、BIツール、等の活用をすすめます。
- ② 全工程を追跡できるトレーサビリティシステムを構築し、管理業務の効率化と作業性の改善、生産コストの低減を実現します。
- ③ 情報セキュリティに留意し、悪意のあるアクセスから企業・組織が保有する情報資産をサイバー攻撃や内部不正から情報を守ります。

5. 戦略の達成状況に係る指標の決定

DX推進による業務改善の指標として下記KPIを設定し、継続的な改善をすすめます。

- ・ デジタライゼーションによる業務改善時間（時間 h / 年間）
- ・ スマートファクトリー化による人時生産性の向上
- ・ ES調査における「仕事の手ごたえ」、「自己成長の機会」項目の向上

6. 実務執行総括責任者による効果的な戦略の推進等を図るために必要な情報発信

- ・ DX戦略をDX推進課の方針へ落とし込み、進捗を管理します。
- ・ 2週間に1度開催される役員会（推進会議）にて、DX推進課による活動状況を報告し、フィードバックをもらうことで、PDCAを回していきます。